

スポーツ行動の予測因に関する研究(2) ; 心理的・身体的要因について

徳永, 幹雄
九州大学健康科学センター

橋本, 公雄
福岡工業大学

金崎, 良三
九州大学健康科学センター

多々納, 秀雄
九州大学健康科学センター

<https://doi.org/10.15017/362>

出版情報 : 健康科学. 3, pp.71-85, 1981-03-30. 九州大学健康科学センター
バージョン :
権利関係 :

スポーツ行動の予測因に関する研究(2)

—心理的・身体的要因について—

徳永 幹雄* 橋本 公雄**
金崎 良三* 多々納 秀雄*

A Study on the Factors Predicting Sport Behavior (2): Analysis of Psychological and Physical Factors

Mikio TOKUNAGA* Kimio HASHIMOTO**
Ryozo KANEZAKI* Hideo TATANO*

The purpose of this study is to examine the psychological and physical factors that are contributory to the sport behavior. A questionnaire was administered to 270 male and 292 female students of some universities and junior colleges in Fukuoka city, from December in 1979 to February in 1980. The data were analyzed by Hayashi's quantification theory (II).

Main results are summarized as follows:

1. As high correlation ratios were found in males ($r=.818$) and females ($r=.756$), it was verified that these variables were very effective to predict the sport behavior.
2. The variables concerning the attitude and personality of males were more strongly contributory to the sport behavior than those of females. Other variables, i. e., belief, behavioral intention and physical factors, showed similar tendencies between males and females.
3. A total of 70 variables consisted of 60 psychological and 10 physical factors could carefully be selected as the factors predicting sport the behavior.

(Journal of Health Science, Kyushu University, 3: 71~85, 1981)

緒言

国民の運動不足とそれに起因する健康障害が指摘されているが^{4) 9) 12) 18)}, スポーツ行動は健康の維持・増進に貢献することが多い。近年, 国民のスポーツ参加は増加しており¹⁷⁾, 体育社会学の分野では「スポーツの社会化に関する研究」が多く進められてい

る⁶⁾。

これらの研究において, 人は何故スポーツをするのか, あるいはしないのか, それを規定している要因は何かといった分析が多変量解析を用いてなされている。そして, その要因として社会学的要因のみならず心理学的要因の影響力を指摘している報告が多い。

桑野ら¹³⁾は林の数量化理論第Ⅱ類を適用して分析した結果, 一般社会人のスポーツ活動の成立要因の一つとして, スポーツ志向を指摘している。同じ技法を用いて心理的要因が見出されたものとして, 池田ら⁵⁾

* Institute of Health Science, Kyushu University, Ropponmatsu, Fukuoka, 810, Japan.

** Department of Physical Education, Fukuoka Institute of Technology, Fukuoka, 811-02, Japan.

注1) 運動経験を心理的変数とみたのは過去の運動経験により形成された態度, 信念が現在のスポーツ行動に関与しているとみたからである。

の運動経験¹¹⁾、多々納ら²⁰⁾のスポーツ好意度、スポーツ観、スポーツ経験があげられる。また、スポーツ活動そのものではないが、スポーツクラブ所属の要因をみた金崎ら⁸⁾はスポーツに対する態度を見出し、スポーツ種目の選択行動をみた松田ら¹⁴⁾もスポーツ活動に対する効果の態度及び運動経験をあげている。

さらに、小椋ら¹⁰⁾は労働とスポーツ参与との関係を重回帰分析を用いてスポーツ満足度、スポーツ経験の関与を報告し、丹羽ら¹⁵⁾は女子大生を対象に段階的群差回帰方程式を用いてスポーツ参加意欲、運動経験を指摘し、山口ら²⁴⁾はパス解析を用いて運動経験のスポーツ参与への規定力を見出している。

このように種々の多変量解析を用いて、心理的要因のスポーツ行動への関与度が報告されているが、心理的要因の取り上げ方には理論的裏付けを欠き問題が多い。

本研究ではスポーツ行動に関与する要因として心理的要因と身体的要因の中から行動予測因として有効な変数を抽出することを目的にした。

方法

1. 対象

福岡市内の国立、公立、私立の大学及び短大の1年生に質問紙法により調査し、資料の完全な男子270名、女子292名、合計562名を対象とした。

2. 時期

昭和54年12月から昭和55年2月。

3. 内容

スポーツ行動及びその予測因は図1に示すとおりである。予測因として心理的要因、身体的要因、社会・経済・文化的要因及びスポーツ関連要因の4つの要因群をモデルとして考えた。本稿では心理的要因と身体的要因について取り扱う。心理的要因については既に筆者ら^{22) 23)}がFishbeinの行動予測モデルをランニング行動において検証したので、そのモデルに用いられた信念、態度および行動意図を用い、それに性格的変数を加えた。

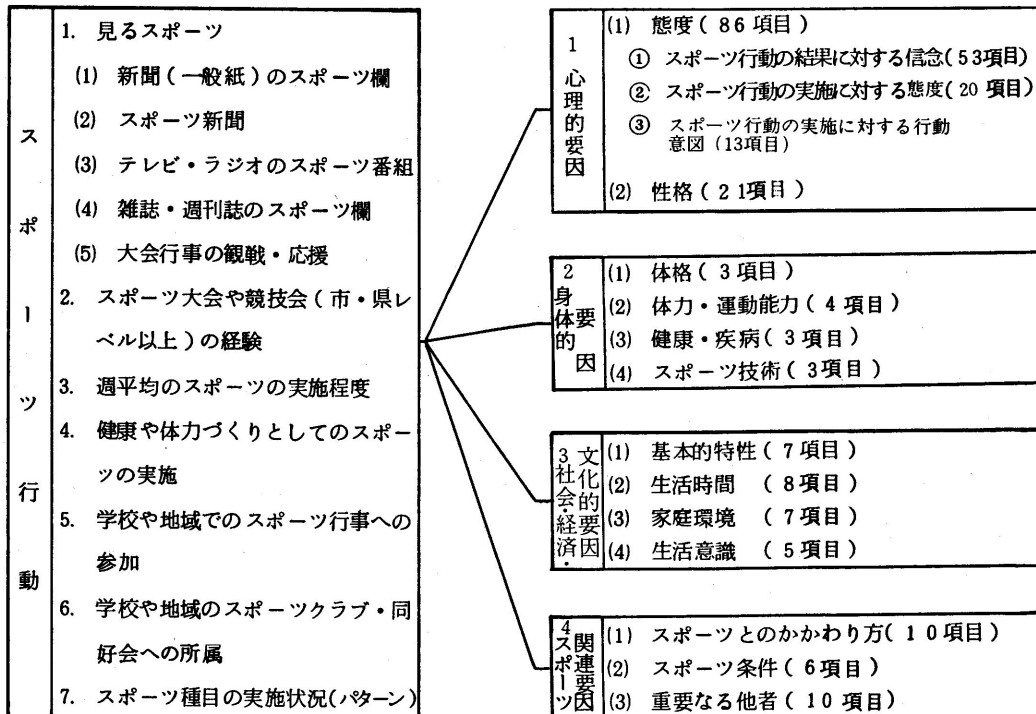


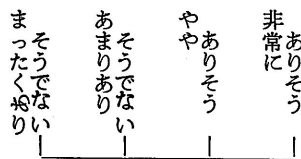
図1 スポーツ行動と予測因のモデル

(1) スポーツ行動

予測される外的基準としてのスポーツ行動は11項目（図1）調査されたが、今回の分析に用いたスポーツ行動は、「学校の体育実技を除く、週平均のスポーツ実施程度」であり、「毎日（週5～6日以上）」、「ほとんど毎日（週3～4日）」、「ときどき（週1～2日）」、「ときたま（月1～2日）」、「まったくしていない」の5段階で測定した。

(2) スポーツ行動の結果に対する信念

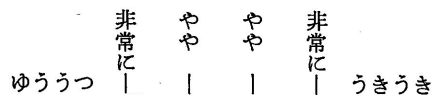
あなたが、「今後、スポーツを継続する」と仮定した場合という設問に対し、「体重の調整になる」などのスポーツ行動のもたらす結果について



という4段階の確率次元尺度でその蓋然性を測定した（53項目）。

(3) スポーツ行動の実施に対する態度

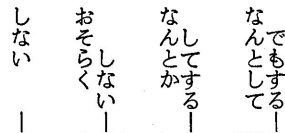
あなたが、「今日から2週間以内に何かのスポーツを実施する」と仮定した場合という設問に対し、その感情的・評価的側面を、例えば



などの対形容詞句を用いた4段階尺度のSD法で測定した（20項目）。

(4) 特定状況でのスポーツ行動の実施に対する行動意図

あなたが、「今日から2週間以内に何かのスポーツを実施する」と仮定した場合という設問に対し、「あまり暇がないとき」などの特定状況について



という4段階の行動意図を測定した（13項目）。

(5) 性格

性格的尺度はY-G性格検査の測定尺度を骨子に21項目からなる性格特性で構成し、対形容詞句を用いた4段階（かなり、やや、やや、かなり）のSD法で測定した（21項目）。

(6) 身体的要因

身体的要因としては体格、体力、健康、スポーツ技術の4領域から構成し、対形容詞句を用いた4段階（かなり、やや、やや、かなり）のSD法で測定した（13項目）。

4. 分析方法

心理的要因の各変数に用いられた項目の適合性をみるために、Good-Poor Analysis（上位-下位分析）と相関分析（ピアソンの相関係数）を用いた。

つぎに、信念、態度、性格の変数においては因子分析（主因子解、Normal Varimax 回転）を用いて因子の抽出を試みた。

その結果、信念、態度変数から約50%にあたる項目が削除され、信念27個、態度10個、行動意図13個、性格21個及び身体的要因13個の合計84個を予測因とした。外的基準に対する判別力は、林の数量化理論第Ⅱ類によって分析し、有効な予測因を精選した。

なお、ここでの予測される外的基準は「スポーツ実施、非実施」であり、表1に示すとおりである。

結果と考察

1. 質問項目の適合性

信念、態度、行動意図、性格の心理的要因について

表1 週平均のスポーツの実施程度（外的基準）

実施程度 N		1. 毎日 (週5～6日以上)	2. ほとんど毎日 (週3～4日)	3. ときどき (週1～2日)	4. ときたま (月1～2回)	5. まったく しない
		男子	270	29(10.7)	19(7.0)	73(27.0)
		121(44.7)			149(55.2)	
女子	292	6(2.1)	19(6.5)	71(24.3)	104(35.6)	92(31.5)
		96(32.9)			196(67.1)	

(注) 外的基準として実施程度の高い群（1～3）と低い群（4～5）の2群を設けた

表2 スポーツ行動の結果に対する信念の因子行列(回転後)

原番号	項目	F ₁	F ₂	F ₃	F ₄	F ₅	F ₆	F ₇	F ₈	F ₉	F ₁₀	h ²
48	不愉快なめにあう	698	-077	-141	007	-051	-064	193	-124	-008	031	574
25	苦しい場面にあうばかりである	692	033	-028	-083	006	-101	089	110	007	-010	518
42	劣等感を味わう	687	-057	-035	-143	061	-005	078	-236	-040	-098	574
18	足腰を痛め体調をこわす	625	-060	-033	050	-036	008	040	348	019	023	522
17	無器用な自分をさらけ出す	612	-077	-039	-031	-068	-033	092	-025	-035	-221	464
35	時間をとられたいことができないくなる	570	-116	0	016	-016	-178	042	-047	-010	191	411
32	人間関係でいやな思いをする	570	-090	-108	-053	-020	-094	210	043	-001	114	415
15	疲れすぎて支障をきたす	564	-032	-064	-013	013	-173	034	191	-066	070	400
27	生活が不規則になる	505	-030	-149	020	-045	-032	093	027	-164	381	463
5	ケガなどでからだが悪化する	502	008	-045	112	-025	-050	101	397	-019	-060	442
21	体力の低さを自覚する	501	082	-007	-266	080	071	-107	-083	-124	-207	417
10	汗をかいていやな思いをする	476	-082	-107	-029	-012	-092	141	200	063	-076	324
37	盲従的な性格をつくる	473	011	-003	104	010	-020	407	104	-062	-004	416
51	学力が低下する	462	021	029	228	-041	-136	096	098	-093	278	372
2	ひよわなからだを人から見られる	380	-009	-074	012	-180	-017	070	-033	019	-159	200
23	敏しょう性が増す	-042	704	169	185	117	-024	-017	078	007	004	581
16	とっきの場合、身のこなしがよくなる	-011	608	224	230	163	-026	035	-015	020	-040	503
22	熟睡するのに役立つ	041	584	265	-020	131	123	-006	087	-025	-037	432
24	食欲を増す	-051	540	179	064	047	156	012	-010	024	026	358
13	持久力が向上する	-045	514	058	253	211	136	-068	-176	193	173	499
33	忍耐力の強い性格を養う	-050	461	342	227	057	172	-110	-094	332	-006	547
29	すっきりした気持ちになる	-278	419	363	005	136	345	-008	-086	087	056	540
12	胃・腸の調子がよくなる	-111	411	085	052	192	268	044	-038	225	-030	355
7	スポーツ技術が向上する	-127	357	213	318	071	027	055	085	163	279	410
19	成人病の予防になる	005	334	155	195	292	160	019	-024	063	-185	324
14	からだを動かしたい欲求をみたくす	-192	322	223	160	134	293	009	-014	009	218	368
28	グループの連帯感が増す	-055	238	663	118	023	021	-035	-090	030	086	531
38	エチケットやマナーが身につく	-033	099	652	265	119	040	012	091	083	-063	541
41	仲間が増えたり、交友が深まる	-104	191	633	263	057	139	-056	-115	-088	102	574
40	明るい性格を養う	-242	210	631	140	087	250	-019	022	125	-090	615
26	協調的な性格を養う	-134	267	605	141	072	010	-072	-007	130	-008	504
39	生活がいきいきしたものになる	-234	231	540	123	161	408	-094	039	177	-041	650
36	仲間から多くの情報が得られる	095	190	526	334	004	059	-011	-057	038	027	442
49	大学生活が充実する	-068	175	374	333	064	302	-070	-029	266	-011	458
53	自分の能力を他人に認めてもらえる	-117	107	218	656	015	033	070	156	006	123	549
52	就職の際、有利になる	171	109	178	584	022	-102	022	-057	-081	002	412
45	特技を養い将来の役に立つ	-080	209	201	551	064	086	051	008	197	-079	453
50	可能性への挑戦になる	-071	283	239	479	131	134	098	-078	217	010	470
47	スリル感を味わう	020	065	209	431	054	163	224	-003	-066	020	319
43	競争する楽しさを味わう	-271	128	302	403	145	215	115	067	-038	-017	430
3	筋力が増す	-050	262	083	314	120	172	-035	-079	086	287	318
6	皮下脂肪がとれる	-019	209	050	001	697	090	038	020	083	072	554
4	体重の調整になる	-053	153	053	069	675	232	-003	-083	057	058	556
20	スマートなからだになる	-022	235	180	140	640	-025	060	009	035	-089	531
34	楽しい時間を過せる	- 378	193	339	034	131	518	-006	043	-063	021	588
31	余暇の善用になる	-182	182	218	154	146	507	-114	-039	034	-101	442
1	身体的な疲労がとれ、体調がよくなる	-208	230	067	063	142	422	-020	-091	161	084	344
46	どうまんな態度になる	347	0	-137	126	-047	-041	650	023	-039	-020	585
44	粗野な性格をつくる	288	-030	-085	116	087	-049	629	113	-028	-011	524
30	無鉄砲な性格をつくる	348	-043	049	055	050	-017	517	036	029	063	405
11	かたわな体型をつくることになる	270	015	-051	-004	-032	-044	154	397	-005	037	262
8	病気をしない強いからだになる	-117	358	285	067	172	132	-091	005	460	071	500
9	姿勢がよくなる	-017	255	315	059	256	081	-018	031	421	-093	428
	固有値	5.801	3.713	4.114	2.808	1.967	1.795	1.604	0.815	0.997	0.802	24.416
	分散比	10.9	7.0	7.8	5.3	3.7	3.4	3.0	1.5	1.9	1.5	46.0

(注) 因子負荷量的小数点は省略する

は G-P 分析による λ^2 値、総得点と項目間の相関係数を求め、質問項目の適合性を調べた（付表 1 参照）。各変数の全ての項目（107 個）に 1%水準の有意性が認められ、質問項目の適合性が証明された。

2. 因子の抽出

(1) 信念

因子分析の結果は表 2 に示すとおりである。抽出された因子は 10 個であり、全分散の 46.0% を説明している。数量化理論第 II 類に用いる変数は各因子から、因子負荷量が大きく、内容の重複しないような変数を選ぶことにした。

第 1 因子は「不愉快なめにあう」、「足腰を痛める」といった心身にもたらされる negative な結果と、「時間がとられる」、「生活が不規則になる」といった社会生活面での支障に関する項目から構成されている。これらはスポーツを実施することによって受ける否定的な認知と思われるので、「心身・社会生活への障害因子」と命名した。第 1 因子からは原番号 48, 25, 18, 17, 35, 32 の 6 個を選んだ。

第 2 因子は「敏捷性を増す」、「熟睡するのに役立つ」に代表されるように、健康・体力面の効果に関する項目から構成されている。そこで、この因子は「健康・体力向上の因子」と命名し、原番号 23, 22, 13, 33, 12 の 5 個を選んだ。

第 3 因子は「グループの連帯感が増す」、「エチケット・マナーが身につく」などの社会性の効果に関する項目から構成されているので、「社会性向上の因子」と命名した。選ばれた項目は因子負荷量の大きい原番号 28, 38, 41, 40, 26 である。

第 4 因子は「自分の能力を他人に認めもらえる」、「特技を養い将来の役に立つ」など、スポーツ実施による派生的な効果に対する認知と思われるので、「可能性追求の因子」と命名した。この因子からは原番号 53, 45, 50, 43 を選んだ。

第 5 因子は「皮下脂肪がとれる」、「体重の調整になる」などの 3 項目からなっているが、「体格の因子」と命名し、この 2 項目を選んだ。

その他、第 6 因子から第 10 因子までの中から 9 個の意見を選び、信念変数は合計 27 個の意見で再構成した。

(2) 態度

結果は表 3 に示すとおりである。2 因子が抽出され、分散比は 55.4% であった。

第 1 因子は「満足さ」、「愉快さ」にみられるように快の感情を表わす項目と、「良さ」、「有益さ」の

評価的側面を表わす項目が結びついた因子と思われる。そこで、「快感情・評価の因子」と命名し、項目番号 7, 20, 10, 16, 15, 6, 14 の 7 個を選んだ。

第 2 因子は「こわさ」、「自信のなさ」、「不安さ」という不安感情に関する項目と思われるので「不安感情の因子」と命名し、これらの 3 項目を選んだ。従って、態度変数は合計 10 個で再構成した。

表 3 スポーツ行動の実施に対する態度の因子行列（回転後）

原番号	項目	F ₁	F ₂	h ²
7	良い-悪い	-719	-251	580
20	満足-不満足	-709	-398	661
10	有益な-有害な	-690	-055	480
9	しあわせ-ふしあわせ	-682	-411	633
16	ふきげん-上きげん	669	529	727
19	気が晴れる-気がふさぐ	-667	-327	552
15	不愉快な-愉快的な	663	474	664
12	嫌い-好き	641	519	681
1	悲しい-うれしい	639	434	600
5	喜ばしい-憂わしい	-529	-371	532
2	おもしろい-つまらない	-565	-308	414
14	めううつ-うきうき	588	534	632
11	おろかな-かشこい	545	177	329
13	手軽な-めんどうな	-463	-433	402
18	こわい-楽々	188	807	686
8	自信満々-自信がない	-207	-717	558
4	不安-安心	207	656	496
17	恥しい-誇らしい	334	636	515
6	みじめ-さわやか	498	546	546
3	くるしい-楽しい	443	446	395
固 有 値		6.383	4.696	11.079
全 分 散 比		31.9	23.5	55.4

(注) 因子負荷量の小数点は省略する

(3) 性格

性格的変数の因子行列と分散比をみると表 4 に示すとおりである。5 因子が抽出され、分散比は 41.7% であった。

第 1 因子は社交性、明朗さ、積極性、協調性に代表されるように、対人関係に関連する性格特性と思われるので「適応性因子」と命名した。

第 2 因子は情緒安定性、神経質、気分の変化など Y-G 性格検査にみられる情緒的側面の性格特性であるので「情緒性因子」と命名した。

第 3 因子は指導性、優越感、勇気、競争性、男性的といった項目から構成されているが、これらの項目は性格の力強さの側面を表わしていると思われるので「活動性因子」と命名した。

第 4 因子は忍耐力、意志力、集中力といった意志力に関する項目から構成されているので、「意志性因

子」と命名した。

第5因子は1個であり、「客観性因子」と命名した。

以上、因子の抽出及び外的基準に対する判別力をみるために用いる変数をみてきた。精選された予測変数とそのカテゴリーは付表4、5に示すとおりである。

3. スポーツ行動の予測因の抽出

(1) 判別の精度

各変数の判別力をみる前に要因の判別の精度、つまり、要因全体の外的基準（スポーツ行動）に対する判別力をみると表5に示すとおりである。累積相関比は男子で0.818、女子で0.756であり、男女とも相関比は顕著に高く、十分満足すべき値である。男子が女子より若干高い値を得たことは、用いられた諸変数の判別力が男子に大きいことを示す。とくに、信念と態度要因の累積相関比が女子の0.498に対し、男子は0.531と高くなっており、態度要因が男子の判別力を高めていることを知ることができる。また、同様のことは性格的要因についてもいえ、判別力が大きいことがわか

る。なお、これらの変数を用いてスポーツ実施群と非実施群を判別すると男子では91.50%、女子では90.75%の判別成功率を示した。

これらのことは外的基準が十分に判別でき、判別の精度は著しく高いことを意味している。

(2) 心理的要因

① 信念変数

スポーツ行動に対する信念変数の相関関係は表6に示すとおりである。単相関と偏相関について、飽戸²⁾は、単相関は2つの変数間の見かけ上の相関しかとらえていないことがあり、真の相関をみるためには見かけ上の相関から他の変数を差し引いた偏相関でみた方がよいと述べている。また、レンジとは変数のカテゴリースコアの範囲のことであり、カテゴリースコアの最大値と最小値の絶対値を加えたものであるが³⁾、一般的にはレンジの大きな変数は偏相関も大きくなると述べている¹⁾。そのような理由から、偏相関係数が大きいほど外的基準に対する判別力が高いことを示すので、本稿では偏相関係数を中心に考察をすすめることにした。

表6 スポーツ行動に対する信念変数の相関関係

信念変数	男子 (N=270)				女子 (N=292)				
	単相関	χ^2	偏相関	レンジ	単相関	χ^2	偏相関	レンジ	
第1因子	1 不愉快なめにあう	-.093	2.329	.081	0.185	.044	0.607	.103	0.342
	2 苦しい場面にあうばかり	.048	0.890	.303** ⁽³⁾	0.952 ⁽¹⁾	.149**	7.974*	.248** ⁽¹⁾	0.723 ⁽⁵⁾
	3 足腰を痛め体調をこわす	-.054	3.314	.038	0.091	.046	2.915	.112	0.470
	4 無器用な自分をさらけ出す	.093	2.483	.151*	0.434	.030	1.846	.133*	0.398
	5 時間がとられたいことができない	.021	1.786	.048	0.116	.001	1.167	.209** ⁽⁴⁾	0.529 ⁽¹⁰⁾
	6 人間関係でいやな思いをする	.149**	6.951*	.198** ⁽¹⁰⁾	0.448	-.037	0.479	.053	0.203
第2因子	7 敏捷性を増す	.006	0.176	.227** ⁽⁷⁾	0.733 ⁽⁴⁾	.141*	8.151*	.189** ⁽⁶⁾	0.659 ⁽⁶⁾
	8 熟睡するのに役立つ	-.035	3.922	.154*	0.411	.077	2.625	.067	0.187
	9 持久力が向上する	.035	0.423	.128	0.547 ⁽¹⁰⁾	.009	0.185	.069	0.191
	10 忍耐力の強い性格を養う	.045	1.465	.308** ⁽²⁾	0.922 ⁽²⁾	-.027	0.752	.136*	0.483
	11 胃腸の調子がよくなる	.086	3.529	.161*	0.393	.025	1.750	.098	0.256
第3因子	12 グループの連帯感を増す	-.081	1.889	.138*	0.300	.040	3.263	.134*	0.494
	13 エチケットやマナーが身につく	.150**	6.497*	.232** ⁽⁶⁾	0.601 ⁽⁸⁾	.129*	4.879	.094	0.269
	14 仲間が増えたり、交友が深まる	.100	2.694	.065	0.164	.016	1.755	.072	0.219
	15 明るい性格を養う	-.017	0.733	.210** ⁽⁹⁾	0.606 ⁽⁶⁾	-.014	4.268	.121*	0.404
	16 協調的な性格を養う	-.050	5.299	.138*	0.314	.081	6.898*	.174** ⁽⁸⁾	0.522
第4因子	17 自分の能力を人に認めて貰える	-.042	1.424	.160*	0.524	.121*	5.942	.222** ⁽³⁾	0.832 ⁽⁴⁾
	18 特技を養い将来の役に立つ	.183**	8.993*	.215** ⁽⁸⁾	0.602 ⁽⁷⁾	.011	3.995	.068	0.283
	19 可能性への挑戦になる	.043	1.744	.263** ⁽⁴⁾	0.580 ⁽⁹⁾	.090	4.521	.129*	0.576 ⁽⁹⁾
	20 競争する楽しさを味わう	.123*	4.732	.125	0.374	-.047	0.692	.132*	0.633 ⁽⁷⁾
5	21 皮下脂肪がとれる	.025	0.344	.164*	0.341	-.031	0.952	.161** ⁽¹⁰⁾	0.503
	22 体重の調整になる	.014	2.787	.053	0.111	.023	0.246	.122*	0.414
6	23 楽しい時間を過ごせる	.088	2.109	.165*	0.508	.174**	9.566**	.222** ⁽²⁾	1.016 ⁽¹⁾
	24 余暇の善用になる	.015	0.719	.348** ⁽¹⁾	0.906 ⁽³⁾	-.063	1.268	.168** ⁽⁹⁾	0.843 ⁽³⁾
7	25 どう慢な態度になる	.128*	6.337*	.148*	0.351	.026	0.532	.180** ⁽⁷⁾	0.884 ⁽²⁾
8	26 ケガなどでからだが悪化する	.078	1.642	.236** ⁽⁵⁾	0.643 ⁽⁵⁾	.078	1.829	.158**	0.449
9	27 病気をしない強いからだになる	-.032	0.658	.036	0.073	.138*	5.589	.196** ⁽⁵⁾	0.614 ⁽⁸⁾

** p<.01 * p<.05

偏相関に有意性が認められたのは男子19個、女子18個とはほぼ同数であり、そのうち14個は男女共通した変数であった。従って、信念、つまりスポーツ行動の結果に対する認知には顕著な男女差はないと思われる。男女に共通して有意な判別力をもつ変数は「苦しい場面にあう(2)」、「無器用な自分をさらけ出す(4)」、「敏しよう性の増加(7)」、「忍耐力の養成(10)」、「連帯感の増加(12)」、「明るい性格養成(15)」、「協調的性性格養成(16)」、「他者からの承認(17)」、「可能性への挑戦(19)」、「皮下脂肪の除去(21)」、「楽しい時間(23)」、「余暇の善用(24)」、「ごう慢な態度(25)」、「からだの悪化(26)」などである。とくに、男子では「余暇の善用」、「苦しい場面にあう」、「忍耐力の養成」などに0.300以上の偏相関がみられ、強い影響力をもっていることがわかる。女子では「苦しい場面にあう」、「楽しい時間」、「他

者からの承認」などが上位を占めている。

その他、男子では「人間関係がいやな思い」、「熟睡に役立つ」、「エチケット・マナーが身につく」、「特技の将来性」、「胃・腸の調子よくなる」などに、女子では「時間がとられる」、「体重の調整」、「病気をしないからだ」に有意性が認められた。したがって、これらの変数では男女相違した判別力をもつものと思われる。

② 態度変数

スポーツ行動に対する態度変数の相関関係は表7に示すとおりである。

態度概念は従来、認知的、感情的、行為的な成分として捉えられていたのに対し、Fishbein^{1) 3) 19)}が態度を評価または感情的な一貫性として捉え、対象に対する評価的・感情的尺度で測定されると主張している考えに基づいて、態度尺度を構成したものである。

表7 スポーツ行動に対する態度変数の相関関係

態度変数	男子 (N=270)				女子 (N=292)				
	単相関	χ^2	偏相関 (順位)	レンジ (順位)	単相関	χ^2	偏相関 (順位)	レンジ (順位)	
第1因子	1 良い-悪い	.143*	10.576**	.197**	0.619(4)	.104	3.771	.079	0.400
	2 満足-不満足	-.006	5.896	.240***(4)	1.071(2)	.006	2.797	.082	0.248
	3 有益な-有害な	.003	0.008	.260***(1)	0.602	.024	1.165	.233***(1)	1.558(1)
	4 不機嫌な-上機嫌な	.042	6.312*	.245***(3)	0.988(3)	.017	4.128	.093	0.370
	5 不愉快な-愉快な	-.114	4.654	.108	0.264	.011	4.381	.145*(3)	0.676(2)
	6 嫌い-好き	.166**	11.304**	.255***(2)	1.268(1)	.077	5.464	.122*(5)	0.451
	7 ゆううつ-うきうき	.017	4.352	.224***(5)	0.617(5)	.110	3.581	.139*(4)	0.648(3)
第2因子	8 こわい-楽々	.078	4.810	.171*	0.479	.197**	11.780**	.187***(2)	0.535(5)
	9 自信満々-自信がない	-.020	5.281	.184**	0.601	.170**	11.688**	.098	0.457
	10 不安-安心	.022	4.909	.123	0.506	.182**	9.681**	.099	0.621(4)

** p<.01 * p<.05

表8 スポーツ行動に対する行動意図変数の相関関係

行動意図変数	男子 (N=270)				女子 (N=292)			
	単相関	χ^2	偏相関 (順位)	レンジ (順位)	単相関	χ^2	偏相関 (順位)	レンジ (順位)
1. あまり暇がないとき	-.063	11.117**	.258***(4)	0.725(4)	.256**	19.823**	.136*	0.599
2. 天気があまりよくないとき	.020	12.217**	.360***(1)	0.769(3)	.211**	14.844**	.052	0.235
3. 運動仲間が少ないとき	-.064	5.765	.142*	0.273	.054	6.328*	.020	0.095
4. 場所があまり恵まれていないとき	.017	10.095**	.014	0.055	-.040	1.890	.162***(4)	0.824(2)
5. 勉強が少し忙しいとき	.180**	12.391**	.274***(3)	0.851(2)	.117*	7.012*	.121*	0.457
6. 誘ってくれる人がいないとき	.116*	10.849**	.151*	0.460	-.101	3.130	.245***(2)	0.861(1)
7. スポーツ大会などの行事がないとき	.187**	9.573**	.202***(5)	0.597(5)	.190**	12.543**	.246***(1)	0.785(5)
8. 身体的にやや不調なとき	.117*	7.884*	.197***(6)	0.414	.167**	12.706**	.235***(3)	0.820(3)
9. 指導者がいないとき	-.027	1.049	.106	0.391	.017	6.176*	.141***(6)	0.806(4)
10. お金を必要とするとき	-.039	3.665	.055	0.149	-.007	1.330	.049	0.178
11. スポーツ技術がすこし下手なとき	-.067	1.528	.308***(2)	1.000(1)	.031	2.549	.103	0.489
12. 精神的にやや不調なとき	.095	3.748	.100	0.279	-.055	2.698	.036	0.142
13. どんな場合であっても	.116*	8.228*	.100	0.512(6)	.203**	12.034**	.157***(5)	0.668(6)

** p<.01 * p<.05

有意性が認められた偏相関は男子8個、女子5個であり、女子に少ない。とくに、1%の有意水準でみると男子7個に対し女子は2個しか認められず、態度要因の外的基準に対する判別力は、男子の方が大きいといえる。なかでも、第2因子の「不安感情因子」より

第1因子の「快感情・評価因子」において、その判別力は大きい。

最も高い偏相関がみられた変数は、男女とも「有益さ(3)」であり、スポーツをすることが自分にとって有益か否かの評価の能度は、性差を問わずスポー

表9 スポーツ行動に対する性格的変数の相関関係

性格的変数	男子 (N=270)				女子 (N=292)				
	単相関	χ^2	偏相関	レンジ	単相関	χ^2	偏相関	レンジ	
第1因子	1 社交的—非社交的	.036	3.053	.102	.232	.124*	4.882	.198** ⁽²⁾	.782 ⁽²⁾
	2 明るい—暗い	.168**	10.604**	.043	.122	-.010	0.546	.323** ⁽¹⁾	1.343 ⁽¹⁾
	3 積極的—消極的	.102	2.839	.148*	.479 ⁽⁹⁾	.087	2.978	.078	.440 ⁽¹⁰⁾
	4 非協調的—協調的	.036	0.887	.314** ⁽³⁾	.617 ⁽⁵⁾	.066	6.172*	.150** ⁽⁷⁾	.458 ⁽⁹⁾
	5 行動派—理論派	-.226**	14.147**	.179* ⁽⁹⁾	.666 ⁽⁴⁾	-.025	4.908	.043	.193
	6 適応性がある—不適応	-.008	0.108	.224** ⁽⁸⁾	.586 ⁽⁶⁾	.028	2.024	.164** ⁽⁵⁾	.664 ⁽⁴⁾
第2因子	7 情緒安定—情緒不安定	-.017	1.481	.034	.116	.138*	8.966*	.093	.408
	8 神経質—おおらか	.123	5.696	.154** ⁽¹⁰⁾	.495 ⁽⁸⁾	-.042	3.033	.196** ⁽³⁾	.763 ⁽³⁾
	9 気分の変化大—気分の変化小	.117*	4.324	.245** ⁽⁵⁾	.530 ⁽⁷⁾	.036	9.162*	.114** ⁽¹⁰⁾	.304
	10 悲観的—楽観的	.043	5.396	.098	.285	.094	2.789	.161* ⁽⁶⁾	.609 ⁽⁶⁾
	11 短気—気長	.013	0.043	.048	.139	.069	1.984	.117* ⁽⁹⁾	.504 ⁽⁸⁾
第3因子	12 服従的—指導的	.136*	5.024	.234** ⁽⁶⁾	.464 ⁽¹⁰⁾	-.058	0.967	.074	.211
	13 劣等感が強い—優越感が強い	-.084	2.040	.135	.459	.010	4.880	.101	.313
	14 勇気がある—臆病	.165*	7.374*	.225** ⁽⁷⁾	.455	-.102	3.014	.023	.062
	15 協同的—競争的	.028	0.672	.387** ⁽²⁾	.786 ⁽²⁾	-.059	1.078	.127* ⁽⁸⁾	.518 ⁽⁷⁾
	16 男性的—女性的	.086	2.010	.030	.077	.058	0.972	.089	.239
	第4因子	17 忍耐力がない—忍耐力がある	.137*	5.322	.437** ⁽¹⁾	1.259 ⁽¹⁾	-.021	0.543	.033
18 意志が弱い—意志が強い		.107	3.432	.138*	.295	-.007	0.039	.088	.330
19 集中力がある—注意力さんまん		-.048	1.294	.079	.215	.054	5.771	.036	.179
20 責任感が強い—無責任		.051	0.688	.284** ⁽⁴⁾	.727 ⁽³⁾	.041	0.504	.029	.087
5	21 客観的—主観的	.067	2.745	.046	.098	.134*	5.883	.191** ⁽⁴⁾	.648 ⁽⁵⁾

** P<.01 * P<.05

表10 スポーツ行動に対する身体的変数の相関関係

身体的変数	男子 (N=270)				女子 (N=292)				
	単相関	χ^2	偏相関	レンジ	単相関	χ^2	偏相関	レンジ	
体格	1 背が高い—背が低い	.024	1.655	.261** ⁽²⁾	.802 ⁽³⁾	.135*	6.630*	.263** ⁽¹⁾	.666 ⁽⁴⁾
	2 やせている—ふとっている	.092	3.324	.210** ⁽⁴⁾	.944 ⁽¹⁾	.170**	10.767**	.230** ⁽²⁾	1.000 ⁽¹⁾
	3 たくましい—ひよわ	.138*	6.373*	.096	.194	.140*	5.855	.052	.394
体運動能力	4 持久力がない—持久力がある	.172**	9.872**	.441** ⁽¹⁾	.879 ⁽²⁾	.130*	9.825**	.206** ⁽³⁾	.553 ⁽⁵⁾
	5 筋力が強い—筋力が弱い	.012	3.931	.208** ⁽⁵⁾	.700 ⁽⁵⁾	.084	4.389	.036	.134
	6 足が速い—足が遅い	-.109	7.260*	.187**	.745 ⁽⁴⁾	-.080	11.426**	.036	.094
	7 すばしっこい—におい	-.103	3.713	.111	.559	-.148**	6.968*	.098	.365
健康	8 体調が不調—快調	-.066	2.233	.241** ⁽³⁾	.694 ⁽⁶⁾	.015	5.144	.086	.284
	9 強健—虚弱	.121*	5.180	.148*	.439	-.065	2.513	.124*	.365
	10 無病—多病	-.029	0.547	.087	.246	.036	1.314	.099	.348
スポーツ術	11 下手—上手	.165**	9.183*	.197** ⁽⁶⁾	.478	.007	9.359**	.183** ⁽⁴⁾	.740 ⁽²⁾
	12 強い—弱い	-.114*	8.828	.155*	.601	.109	12.474**	.158** ⁽⁵⁾	.724 ⁽³⁾
	13 無器用—器用	.103	7.059**	.036	.119	.228**	15.204**	.113* ⁽⁶⁾	.495 ⁽⁶⁾

** P<.01 * P<.05

ツ行動に影響をもつといえる。その他、「好嫌(6)」、「ゆううつさ(7)」、「こわさ(8)」なども共通して高い判別力をもっている。

男子のみに判別力が高いのは、「良さ(1)」、「不機嫌さ(4)」、「満足感(2)」、「自信の有無(9)」であり、女子は「愉快さ(5)」である。男子における態度変数の結果は、筆者ら²²⁾の成人男子を対象にしたランニング行動に対する態度の分析結果とほぼ一致している。

④ 行動意図変数

特定状況のスポーツ行動に対する行動意図とスポーツ行動との相関関係は表8に示すとおりである。

Fishbein³⁾によれば行動意図は態度と行動の媒介変数であり、ある特定の行動を決定する変数である。また、行動意図を測定することによって特定の行動は予測されると述べられている。体育・スポーツの分野においてもこのことは検証され、筆者ら²²⁾はランニング行動と行動意図の間に0.899(N=204)、Riddle¹⁶⁾

のジョギング行動においては0.830(N=296)の高い相関が得られている。Fishbein¹⁾が予測しようとする外的基準は行動そのものではなく行動意図であるが、本稿ではスポーツ行動を外的基準におき、行動意図はその予測因として扱っている。

偏相関に有意性が認められたのは男女とも8個であり、そのうち5個が共通していた。男女共通の変数は「暇がないとき(1)」、「勉強が忙しいとき(5)」、「誘ってくれる人がいないとき(6)」、「スポーツ大会・行事がないとき(7)」、「身体的に不調なとき(8)」であり、時間、人、行事、身体的健康はスポーツ実施条件として男女に共通した影響があるものと考えられる。

その他、男子では、天候、運動仲間、スポーツ技術に判別力が高いが、とくに、天候は0.360と高い値がみられた。また、女子では場所、指導者、どんな場合であっても、といった状況が関与しており男子と相違していた。

表11 信念・態度・行動意図についての予測変数

スポーツ行動の結果に対する信念変数	第1因子	1 苦しいばかり 2 無器用さをさらす 3 したいことができない 4 人間関係でいやな思い	スポーツ行動に対する態度変数	第1因子	1 良い—悪い 2 満足—不満足 3 有益な—有害な 4 不きげん—上きげん 5 不愉快な—愉快な 6 嫌い—好き 7 ゆうつ—うきうき	
	2	5 敏しょうの養成 6 熟睡できる 7 忍耐力の養成 8 胃腸がよくなる		2	8 こわい—楽々 9 自信満々—自信がない	
	3	9 連帯感の増加 10 エチケットマナーの養成 11 明るい性格の " 12 協調的性格の "		状況に対する行動意図変数	1	1 暇がない 2 勉強が忙しい 3 運動仲間が少ない 4 誘ってくれる人がいない 5 指導者がいいな 6 天気が良くない 7 場所が恵まれていない 8 スポーツ行事がない 9 身体的に不調 10 スポーツ技術が下手 11 どんな場合でも
	4	13 能力を認めて貰える 14 特技の養成 15 可能性への挑戦 16 競争する楽しさ				
	5	17 皮下脂肪がとれる 18 体重の調整				
	6	19 楽しい時代になる 20 余暇の善用になる				
	7	21 ごうまんな態度になる				
	8	22 からだの悪化				
	9	23 病気をしない				

表12 性格的・身体的予測変数

性格的変数	第1因子	1 社交的—非社交的 2 明るい—暗い 3 積極的—消極的 4 非協調的—協調的 5 行動派—理論派 6 適応性がある—不適応
	2	7 神経質—おおらか 8 気分の変化大—気分の変化小 9 悲観的—楽観的 10 短気—気長
	3	11 服従的—指導的 12 勇気がある—億病 13 協同的—競争的
	4	14 忍耐がない—忍耐がある 15 意志が強い—意志が弱い 16 責任感が強い—無責任
	5	17 客観的—主観的
身体的変数	性格	1 背が高い—背が低い 2 やせている—ふとっている
	体運動能力	3 持久力がない—持久力がある 4 筋力が強い—筋力が弱い 5 足が速い—足が遅い
健康変数	健康	6 体調が不調—快調 7 強健—虚弱
	スポーツ	8 下手—上手 9 強い—弱い 10 無器用—器用

⑤ 性格的変数

スポーツ行動に対する性格的変数の相関関係を示すと表9に示すとおりである。偏相関の有意性が認められたのは男子12個、女子10個であり、5個が共通していた。

男女共通して有意な判別力がみられた変数は、「協調性（4）」、「適応性（6）」、「神経質（8）」、「気分の変化（9）」、「競争性（15）」である。

その他、男子では積極性、行動性、指導性、勇氣、忍耐力、意志力、責任性という変数に判別力が高かったのに対し、女子では社交性、明るさ、楽観性、気長、客観性などで高く、多くの変数に男女相違した判別力がみられる。これらの中で、最も大きな判別力を示したのは男子では「忍耐力」であり、女子では、「明るさ」であった。

このようにみえてくると、性格的変数は男女差が顕著である。つまり、男子は活動性因子、意志性因子の影響がみられるのに対し、女子は情緒性因子に影響が大きいように思われる。男子におけるこれらの結果は筆者ら²¹⁾のスポーツ活動と活動性に積極的関係がみられ、情緒面とはみられなかった報告と類似している。

(3) 身体的要因

スポーツ行動に対する身体的変数の相関関係は表10に示すとおりである。有意性が認められた偏相関は、男子9個、女子7個であり、6個は共通していた。

男女共通して判別力の高い変数は、「身長（1）」、「肥満度（2）」、「持久力（4）」、「健康度（9）」、「スポーツ技術の上手さ（11）」、「強さ（12）」である。なかでも、男子は「持久力」の判別力が最も大きく、偏相関は0.441が得られた。女子では身長、肥満度という体格面の判別力が大きいといえる。

その他、男子では、筋力、走力、体調などの健康、体力的変数が関係していた。また、女子では器用さも関係していることが示された。

以上、外的基準に対する偏相関係数の大きさから、判別力をもつ有効な変数を見てきたが、今回は男女とも有意な偏相関が認められなかった変数のみを削除することにした。従って、予測因として抽出された有効な変数は表11、12に示すとおりである。今後は、これらの変数に、社会・経済・文化的要因、スポーツ関連要因などを組み入れることにより、スポーツ行動の予測因として精度の高い変数を精選していく必要がある。

要 約

スポーツ行動の予測因として心理的要因、身体的要因、合計120個の変数を取りあげ、林の数量化理論第Ⅱ類を用いて各変数の判別力を検討してきた。要約すると、つぎようになる。

1 信念、態度、性格変数の構成因子をみるために因子分析を行った結果、信念変数は心身・生活への障害因子、健康・体力向上因子、社会性向上因子など10因子、態度変数は快感情・評価因子と不安感情因子の2因子、性格変数は、適応性、情緒性、活動性、意志性、客観性の5因子が抽出された。

2 信念変数では男女とも類似した変数に高い判別力がみられ、23個の有効な予測因が精選された。男子では余暇の善用、女子では苦しい場面にあう等の結果に対する信念変数に最も大きい判別力がみられた。

3 態度変数では男子が女子より判別力の高い傾向がみられた。9個の有効な予測因が精選され、なかでも、「有益一有害」の変数は男女とも大きな判別力を示した。

4 行動意図変数では男女とも類似した判別力を示し、11個の有効な予測因が精選された。男子は天候、女子は場所の状況における行動意図が最も大きい判別力を示した。

5 性格的変数では男女差が著しく、男子は女子に比べ活動性、意志性因子の判別力は高いが、情緒性因子の判別力は低い。有効な予測因として17個を精選したが、男子は忍耐力、女子は明るさの性格特性に最も大きい判別力が示された。

6 身体的要因では男女ともに類似した変数に高い判別力がみられ、10個の有効な予測因が精選された。男子は持久力、女子は身長に最も大きい判別力がみられた。

附記 調査に際して中村学園大学の白木 静枝 助教授、佐賀大学の久永義裕助教授、福岡女子大学の篠崎 俊子 助手にとくにご協力頂いた。また九州大学健康科学センターの吉川和利助手には集計の一部をお願いした。併せて感謝の意を表します。なお、本稿は徳永を中心に計画・集計など行なったが執筆は橋本が担当した。

引用・参考文献

- 1) Ajzen, I. and Fishbein, M. "Attitudes and normative beliefs as factors influencing behavioral intention," *Journal of Personality and Social Psychology*, 21:1-9, 1972.
- 2) 鮑戸 弘, 社会調査入門, 日経新書, 1971. pp. 39-40.
- 3) Fishbein, M. and Ajzen, I. *Belief, attitude, intention and behavior: An introduction to theory research*, Addison Wesley: Massachusetts, 1975. pp. 216-84.
- 4) グリュネヴァルト・ヴェルツェン ミューラー (福岡孝行訳), あなたを救う健康スポーツ, ベースボールマガジン社, 1977. p. 191.
(Grünwald, B. and Wollzenmüller, F., "Die gesundheitskarriere durch ausgleichssport," Bertelsmann Ratgeberverlag: München, 1973.
- 5) 池田 勝・永吉宏英・江橋慎四郎「勤労青少年のスポーツ実施に関する要因の分析」日本体育学会第27回大会号, 112, 1974.
- 6) 池田 勝・山口泰雄「スポーツの社会化に関する研究の動向と問題点」*体育の科学*, 29-8:577-82, 1979.
- 7) 金崎良三・橋本公雄「学生の課外体育活動に関する研究(1) - その規定要因について -」九州大学体育学研究, 5-4:27-35, 1976.
- 8) 金崎良三・厨 義弘「社会人のスポーツクラブ所属を規定する要因分析」九州大学健康科学, 2:141-153, 1980.
- 9) クラウス・ラープ (広田公一・石川 且訳), 運動不足病, ベースボールマガジン社, 1977. pp.230.
(Kraus, H. and Raab, W., "Hypokinetic disease - Diseases produced by lack of exercise," Charles C Thomas, Illinois, 1961.
- 10) 小椋 博・影山 健「労働要因がスポーツ参加に及ぼす影響の分析」*体育学研究*, 22-5:312-19,
- 11) 国民選好度調査委員会(編), 日本人の満足度, 至誠堂, 1972.
- 12) クーパー, K. (広田公一他訳), エアロビクス, ベースボールマガジン社, 1979, pp. 16-25.
- 13) 糸野 豊・永吉宏英・江橋慎四郎・島崎仁「スポーツ活動の成立要因に関する研究」日本体育学会第25回大会号, 187, 1974.
- 14) 松田泰三・東川安雄・荒井貞光「スポーツ行動に関する実証的研究(3) - スポーツ種目選択行動について -」*体育学研究*, 24-1:1-11, 1979.
- 15) 丹羽劭昭・長沢邦子「女子大生のスポーツ参加を規定する要因の検討」*体育学研究*, 23-2:109-19, 1978.
- 16) Riddle, P.K., "Attitude, beliefs, behavioral intention of women and men toward regular jogging," M.S., University of Illinois, 1978.
- 17) 島崎仁, 「現代人のスポーツ志向」, 体育社会学研究会(編), 現代スポーツ論, 道和書院, 1973. pp. 45-62.
- 18) 鈴木慎次郎「栄養と運動」*体育の科学*, 30-2:81-90, 1980.
pp. 81-90.
- 19) 田中国夫, 新版現代社会心理学, 誠信書房, 1977. p. 181.
- 20) 多々納秀雄・厨 義弘「スポーツ参加の多変量解析 - 数量化理論第Ⅱ類による要因分析」九州大学健康科学, 2:103-18, 1980.
- 21) 徳永幹雄・松本寿吉・橋本公雄「学生の体型・体力・性格と体育・スポーツに対する態度および活動の関係」九州大学体育学研究, 4-4:15-21, 1971.
- 22) 徳永幹雄・多々納秀雄・橋本公雄・金崎良三「スポーツ行動の予測因子としての行動意図・態度・信念に関する研究(I) - ランニング実施に対する M. Fishbein の行動予測式の適用 -」*体育学研究*, 25-3:179-90, 1980.
- 23) 徳永幹雄・橋本公雄・多々納秀雄・金崎良三「スポーツ行動の予測因子としての行動意図・態度・信念に関する研究(II) - ランニング実施者と非実施者の諸特性の比較 -」九州大学健康科学, 2:91-101, 1980.
- 24) 山口 博・糸野 豊・池田 勝「パス解析によるスポーツ参加の分析」筑波大学体育科学系紀要, 2:23-30, 1979.

付表1 スポーツ行動の結果に対する
信念変数についての項目分析

身体面に関する変数			社会的・心理的側面 に関する変数		
原番号	χ^2	r	原番号	χ^2	r
1	119.312**	.520**	26	129.120**	.615**
2	52.479**	.369**	27	65.435**	.450**
3	81.906**	.446**	28	111.535**	.559**
4	104.420**	.518**	29	140.078**	.615**
5	55.948**	.378**	30	39.042**	.273**
6	90.494**	.480**	31	104.874**	.554**
7	90.143**	.491**	32	99.926**	.516**
8	122.217**	.567**	33	127.975**	.585**
9	91.564**	.470**	34	138.211**	.621**
10	68.801**	.421**	35	69.146**	.440**
11	50.654**	.296**	36	87.554**	.488**
12	107.976**	.537**	37	46.778**	.327**
13	129.149**	.572**	38	115.581**	.566**
14	137.174**	.555**	39	178.287**	.726**
15	72.958**	.445**	40	175.137**	.713**
16	93.210**	.515**	41	170.265**	.626**
17	103.422**	.506**	42	65.319**	.465**
18	73.120**	.438**	43	115.767**	.581**
19	82.009**	.460**	44	39.665**	.300**
20	77.034**	.489**	45	99.683**	.514**
21	36.235**	.303**	46	72.943**	.378**
22	74.706**	.447**	47	48.132**	.331**
23	105.682**	.519**	48	90.401**	.538**
24	75.014**	.474**	49	121.060**	.599**
25	74.126**	.432**	50	90.154**	.530**
			51	24.033**	.267**
			52	29.068**	.259**
			53	76.448**	.471**

** p < .01

付表2 態度及び行動意図変数
についての項目分析

	原番号	χ^2	r
ス ポ ー ツ に 対 し た 行 動 す る 態 度 変 数	1	179.456**	.775**
	2	206.028**	.659**
	3	163.779**	.666**
	4	146.269**	.648**
	5	177.152**	.738**
	6	194.186**	.751**
	7	213.972**	.725**
	8	144.958**	.644**
	9	147.986**	.788**

	原番号	χ^2	r
ス ポ ー ツ 行 動 の 対 し た 態 度 変 数	10	107.436**	.581**
	11	83.909**	.556**
	12	226.264**	.828**
	13	148.608**	.668**
	14	191.127**	.802**
	15	178.086**	.812**
	16	171.128**	.847**
	17	171.313**	.684**
	18	154.151**	.676**
	19	177.838**	.733**
20	203.507**	.802**	
状 況 に 対 し た 行 動 意 図 変 数	1	153.455**	.695**
	2	167.095**	.701**
	3	167.034**	.713**
	4	200.134**	.744**
	5	179.060**	.712**
	6	183.964**	.731**
	7	212.451**	.746**
	8	162.852**	.647**
	9	170.502**	.718**
	10	128.468**	.578**
	11	173.142**	.730**
	12	150.533**	.614**
	13	177.323**	.633**

** p < .01

付表3 性格的変数についての項目分析

原番号	χ^2	r
1	125.631**	.583**
2	78.271**	.452**
3	139.723**	.602**
4	114.456**	.556**
5	85.933**	.432**
6	86.045**	.496**
7	86.856**	.435**
8	72.523**	.464**
9	102.094**	.482**
10	139.195**	.544**
11	10.042**	.137**
12	63.334**	.430**
13	58.164**	.375**
14	61.968**	.394**
15	35.669**	.317**
16	153.991**	.591**
17	100.740**	.519**
18	132.178**	.587**
19	102.875**	.588**
20	81.446**	.416**
21	14.348**	.247**

** P < .01

付表4 スポーツ行動に対する信念・態度・行動意図の予測変数とカテゴリー

予 測 変 数		カ テ ゴ リ ー 内 容				
ス ポ ー ツ 行 動 の 結 果 に 対 す る 信 念 変 数	第 1 因 子	1 不愉快な目にあう	1)まったくありそうでない	2)あまりありそうでない	3)やや・非常にありそう	
		2 苦しいばかり	1) "	2) "	3) "	
		3 足腰を痛める	1) "	2) "	3) "	
		4 無器用さをさらす	1) "	2) "	3) "	
		5 したいことができない	1) "	2) "	3) "	
		6 人間関係でいやな思い	1) "	2) "	3) "	
	第 2 因 子	7 敏しょう性の養成	1)まったく・あまりありそうでない	2)ややありそう	3)非常にありそう	
		8 熟睡できる	1) "	2) "	3) "	
		9 持久力の向上	1) "	2) "	3) "	
		10 忍耐力の養成	1) "	2) "	3) "	
		11 胃腸がよくなる	1) "	2) "	3) "	
	第 3 因 子	12 連帯感の増加	1) "	2) "	3) "	
		13 エチケット・マナーの養成	1) "	2) "	3) "	
		14 仲間が増える	1) "	2) "	3) "	
		15 明るい性格の養成	1) "	2) "	3) "	
	第 4 因 子	16 協調的 성격の養成	1) "	2) "	3) "	
		17 能力を認めて貰える	1)まったくありそうでない	2)あまりありそうでない	3)やや・非常にありそう	
		18 特技の養成	1)まったく・あまりありそうでない	2)ややありそう	3)非常にありそう	
		19 可能性への挑戦	1) "	2) "	3) "	
	5	20 競争する楽しさ	1) "	2) "	3) "	
		21 皮下脂肪がとれる	1) "	2) "	3) "	
		22 体重の調整	1) "	2) "	3) "	
		6	23 楽しい時間になる	1) "	2) "	3) "
			24 余暇の善用になる	1) "	2) "	3) "
7		25 ごうまんな態度になる	1)まったくありそうでない	2)あまりありそうでない	3)やや・非常にありそう	
8		26 からだの悪化	1) "	2) "	3) "	
9		27 病気をしない	1)まったく・あまりありそうでない	2)ややありそう	3)非常にありそう	
態 度 変 数		第 1 因 子	1 良い—悪い	1)非常に良い	2)やや良い	3)やや・非常に悪い
	2 満足—不満足		1)非常に満足	2)やや満足	3)やや・非常に不満足	
	3 有益な—有害な		1)非常に有益	2)やや有益	3)やや・非常に有害	
	4 ふきげん—上きげん		1)非常に・ややふきげん	2)やや上きげん	3)非常に上きげん	
	5 不愉快な—愉快な		1)非常・やや不愉快	2)やや愉快	3)非常に愉快	
	6 嫌い—好き		1)非常に・やや嫌い	2)やや好き	3)非常に好き	
	7 ゆううつ—うきうき		1)非常に・ややゆううつ	2)ややうきうき	3)非常にうきうき	
第 2 因 子	8 こわい—楽々	1)非常・ややこわい	2)やや楽々	3)非常に楽々		
	9 自信満々—自信がない	1)非常に・やや自信満々	2)やや自信がない	3)非常に自信がない		
	10 不安—安心	1)非常に不安	2)やや不安	3)やや・非常に安心		
状 況 に 対 す る 行 動 意 図 変 数	1	1 ヒマがない	1) しない	2)おそろくしない	3)なんとかして・ なんとしてでもする	
		2 天気が良くない	1) "	2) "	3) "	
		3 運動仲間が少ない	1) "	2) "	3) "	
		4 場所が恵まれていない	1) "	2) "	3) "	
		5 勉強が忙しい	1) "	2) "	3) "	
		6 誘ってくれる人がいない	1) "	2) "	3) "	
		7 スポーツ行事がない	1) "	2) "	3) "	
		8 身体的に不調	1) "	2) "	3) "	
		9 指導者がいない	1) "	2) "	3) "	
		10 お金が必要	1) "	2) "	3) "	
		11 スポーツ技術が下手	1) "	2) "	3) "	
		12 精神的に不調	1) "	2) "	3) "	
		13 どんな場合でも	1) "	2) "	3) "	

付表5 スポーツ行動に対する身体的・性格的予測変数とカテゴリー

予 測 変 数		カ テ ゴ リ ー 内 容		
身 格	1 背が高い—背が低い	1)かなり背が高い	2)やや背が高い	3)やや・かなり背が低い
	2 やせている—ふとっている	1)かなり・やややせている	2)ややふとっている	3)かなりふとっている
	3 たくましい—ひよわ	1)かなり・ややたくましい	2)ややひよわ	3)かなりひよわ
体 力・ 運 動 能 力	4 持久力がない—持久力がある	1)かなり持久力がない	2)やや持久力がない	3)やや・かなり持久力がある
	5 筋力が強い—筋力が弱い	1)かなり・やや筋力が強い	2)やや筋力が弱い	3)かなり筋力が弱い
	6 足が速い—足が遅い	1)かなり・やや足が速い	2)やや足が遅い	3)かなり足が遅い
	7 すばしっこい—ぶい	1)かなり・ややすばしっこい	2)ややぶい	3)かなりぶい
変 康	8 体調が不調—快調	1)かなり・やや体調が不調	2)やや快調	3)かなり快調
	9 強健—虚弱	1)かなり強健	2)やや強健	3)やや・かなり虚弱
	10 無病—多病	1)かなり無病	2)やや無病	3)やや・かなり多病
数 ス ポ ー ツ	11 下手—上手	1)かなり下手	2)やや下手	3)やや・かなり上手
	12 強い—弱い	1)かなり・やや強い	2)やや弱い	3)かなり弱い
	13 無器用—器用	1)かなり不器用	2)やや不器用	3)やや・かなり器用
性 因 子	1 社交的—非社交的	1)かなり社交的	2)やや社交的	3)やや・かなり非社交的
	2 明るい—暗い	1)かなり明るい	2)やや明るい	3)やや・かなり暗い
	3 積極的—消極的	1)かなり積極的	2)やや積極的	3)やや・かなり消極的
	4 非協調的—協調的	1)かなり・やや非協調的	2)やや協調的	3)かなり協調的
	5 行動派—理論派	1)かなり行動派	2)やや行動派	3)やや・かなり理論派
	6 適応性がある—不適応	1)かなり適応性がある	2)やや適応性がある	3)やや・かなり不適応
格 因 子	7 情緒安定—情緒不安定	1)かなり情緒安定	2)やや情緒安定	3)やや・かなり情緒安定
	8 神経質—おおらか	1)かなり・やや神経質	2)ややおおらか	3)かなりおおらか
	9 気分の変化大—気分の変化小	1)かなり気分の変化大	2)やや気分の変化大	3)やや・かなり気分の変化小
	10 悲観的—楽観的	1)かなり・やや悲観的	2)やや楽観的	3)かなり楽観的
	11 短気—気長	1)かなり短気	2)やや短気	3)やや・かなり気長
変 因 子	12 服従的—指導的	1)かなり・やや服従的	2)やや・かなり指導的	
	13 劣等感が強い—優越感が強い	1)かなり劣等感が強い	2)やや劣等感が強い	3)やや・かなり優越感が強い
	14 勇気がある—億病	1)かなり・やや勇気がある	2)やや・かなり億病	
	15 協同的—競争的	1)かなり協同的	2)やや協同的	3)やや・かなり競争的
	16 男性的—女性的	1)かなり・やや男性的	2)やや・かなり女性的	
数 因 子	17 忍耐力がない—忍耐力がある	1)かなり・やや忍耐力がない	2)やや忍耐力がある	3)かなり忍耐力がある
	18 意志が弱い—意志が強い	1)かなり・やや意志が弱い	2)やや意志が強い	3)かなり意志が強い
	19 集中力がある—注意力さんまん	1)かなり・やや集中力がある	2)やや注意力さんまん	3)かなり注意力さんまん
	20 責任感が強い—無責任	1)かなり責任感が強い	2)やや責任感が強い	3)かなり・やや無責任
5	21 客感的—主観的	1)かなり客観的	2)やや客観的	3)やや・かなり主観的